留学報告書
～留学を通して学んだこと～

東義大学
外国語学部（中期）

私は 9 月から 12 月にかけての 4 か月間、韓国の釜山にある東義大学での中期留学に参加しました。1 年生の夏に短期留学で 3 週間、韓国のソウルに留学したのをきっかけに、さらに韓国語や韓国の文化に興味を持ち、今回の中期留学の参加を決めました。4 か月は長いようでとても短く、あっという間に過ぎて行きました。しかし、多くのことを経験し学ぶことができ、忘れられない時間を過ごしました。

私の韓国での生活や、留学を通し学んだことなどについて紹介していきます。
まずは授業についてです。1 日に計 200 分の授業が月曜日から金曜日までの週 5 日間行われました。私はレベル分けテストで 3 級クラスに入り、日本人だけでなく、台湾、フランス、ミャンマーの人たちと授業を受けました。読む・書く・話す・聞くなどの技能をペアワークや作文、ワークブックなどで学びました。特にペアワークが多く、韓国語での会話を通して自分で考えて話す能力はもちろん、相手が話していることを聞き取る能力も身につけられました。留学をする前までは韓国語で話す機会がなく、正しい韓国語を話せているのか自信がありませんでしたが、授業でのペアワークを通して韓国語を使うことで自分の韓国語能力に少し自信を持つことができました。クラスによって授業の雰囲気は異なりますが、私たちのクラスは韓国語がある程度でき明るい性格の人たちが集まっていたため、国籍関係なくみんなで楽しく授業を受けられました。また、他国の留学生と授業を受けることで、それぞれの国の文化や言語についても知ることができました。初めは緊張していたこともあり、ほかの国から来た留学生とコミュニケーションを取ることに不安を感じ、日本人の学生と話す時間が多くありました。しかし、一緒に授業を受けるうちに、韓国語を使って積極的にコミュニケーションを取りたいと思うようになりました。留学が始まったころ、自分の韓国語能力がどれぐらいなのかが分からなかったため、3 級クラスの授業についていけるか不安でした。授業中に理解できないことも多くありましたが、自分なりに勉強をしたり、テスト前には友達とカフェで勉強をしたりして韓国語の学習に励みました。その結果、最初のテストでは納得できる点数を取ることができませんでしたが、最後のテストでは読みのテストで 100 点を取ることができました。友達でもあり、時にはライバルでもある人たちがいたことで諦めずにいられました。

次に授業以外での生活についてです。私は ICE というサークルに参加しました。このサークルは東義大学の学生はもちろん様々な国の留学生が参加しているサークルです。食事

会での交流やヨットクルーズなどの活動を行いました。全体の活動だけでなく、サークル内でチームに分かれての活動も行いました。私たちのチームは韓国人４人、フランス人２人、日本人１人の７人チームでした。日本人が一人しかおらず、発言するときはすべて韓国語で言わなければいけない状況でした。最初の活動では、会話の内容が理解できても言いたいことを思うように伝えられませんでした。しかし、時間がたつにつれて場の雰囲気に慣れ、完璧ではなくても言いたいことを自分なりに言えるようになり、このような環境に置かれることは言語習得をするのによいことだと実感しました。ICE に参加したことで韓国人との交流が増え、韓国語能力が上がっただけでなく、授業では学ばない韓国特有の文化や韓国語のスラングなども知ることができました。

釜山には、多くの観光地があり、特に夏から冬の時期にかけては釜山国際映画祭やクリスマスマーケット、釜山花火大会などのイベントが開催されます。韓国での生活に慣れてきてからは、休日や授業終わりに釜山の様々な場所を訪れました。映画祭やクリスマスマーケット、海雲台や広安里、水族館、影島、釜山タワー、多大浦などにも行きました。釜山でしか見られない景色や感じられない雰囲気などがあり、日本との違いを見つけられる機会にもなりました。また、韓国料理をよく食べに行きました。サムギョプサルやナッコプセ、ジャージャー麺、カルグクス、日本ではあまり知られていませんが釜山では有名なデジクッパなどほかにも多くの韓国料理を食べました。韓国はタッチパネルで注文する店が多くありますが、もちろんタッチパネルではなく対面で注文をすることもあり、そのような場面で実践的な韓国語能力も身につけることができました。

韓国留学を通して、韓国語や韓国の文化など様々なことについて学ぶことができました。韓国語は日本人にとって学びやすく、数ある言語の中でも比較的習得が簡単な言語です。そのため、そもそも韓国語を学ぶ必要はあるのか、韓国留学に行って何をするのか、などのマイナスな意見を持つ人もいます。しかし、実際に韓国に留学に行き学べたことは言語や文化だけではありませんでした。観光客がいない場所にある飲食店に入ったときに、私たちが日本人だと知った店の方がとても歓迎してくださり、コーヒーをサービスしてくださいました。さらに、タクシーを利用した時や買い物をした時に、日本語でありがとうございますと言ってくださる方もいました。留学前はさまざまな不安もありましたが、実際に生活してみると、私たちが思っていた以上に韓国の人々は温かく、優しさにあふれていることを実感しました。日本にいても韓国語を学ぶことはできますが、韓国で生活することで、インターネットやニュースだけでは知ることのできない韓国の魅力や文化、人々の温かさを肌で感じることができました。留学前は、周囲から韓国留学についてさまざまな意見を受けることもありました。しかし、この留学を通して得た経験は私にとってかけがえのないものであり、韓国留学を選んだことを後悔することは一切ありません。今では、また韓国で暮らしてみたいと思うほど充実した留学生活となりました。

私にとってこの４か月は、学びの期間でもあり、将来について考え直す期間でもありました。この韓国留学で学んだことを大切にし、今後の学習や将来に生かしていきたいです。韓国人だけでなく、同じ趣味や夢を持った留学生たちとのかかわりや、イベントや活動などの経験を通して多くのことを学んだこの４か月は、一生忘れられない思い出になりました。











